

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520459

研究課題名（和文） 日本語学習者の母語と学習環境が言語能力と学習観に与える影響に関する研究

研究課題名（英文） Research on influence that J.S.L. students' first language and learning environment give to Japanese proficiency and beliefs about Japanese learning

研究代表者

土屋 順一 (TSUCHIYA JUNICHI)

東京外国語大学・留学生日本語教育センター・准教授

研究者番号：10262213

研究成果の概要（和文）：

中国のウイグル族、モンゴル族、チベット族、マレーシアのマレー系の日本語学習者に対してキーボード入力調査と面接調査をおこなった結果、以下のことがわかった。

- (1) ウイグル族は正確さよりもなめらかさを重視する傾向がある。
- (2) モンゴル族は対立する存在として漢族をつよく意識するが、日本語の学習過程でみられる特徴は漢族とよくにている。
- (3) チベット族は日本語の音の学習は得意だが、文法の学習に漢字が障害になっていると感じている。
- (4) マレー系の学習者は漢字の影響を過大視していて自己評価がひくい。

研究成果の概要（英文）：

We have conducted two kinds of test to J.S.L students.

Test 1: In order to investigate the types of errors which J.S.L students make when they type in Japanese using a keyboard, we video-recorded the display while they are typing their responses in Japanese to questions given on the computer display.

Test 2: We have conducted semi-structured interviews about learning environment to them immediately after test 1.

The following results were obtained from our analysis.

- (1) Uighur speakers tend to value fluency than accuracy.
- (2) Even the error rate is almost same, Mongolian speakers of China evaluate themselves higher than Chinese speakers.
- (3) Tibetan speakers' error rate is very low. But they feel difficulty in studying Japanese due to lack of knowledge of Chinese characters.
- (4) Malay speakers tend to overvalue the influence of Chinese characters.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：教育評価・測定、学習環境

1. 研究開始当初の背景

代表者は基盤研究(C)(2)「外国人の日本語ワープロ誤入力の分析と外国人用漢字変換辞書の開発」と基盤研究(C)(2)「外国人学習者の日本語作文キーボード入力過程の分析とデータベースの作成」の過程で、誤入力率に母語による差がみられることのほかに、自国で3年程度以上主専攻として日本語を学習してから来日した者の誤入力率が母語をとわず非常に高く、来日前の学習歴が十分でない者は在日歴が5年6年になっても誤入力率が低くならない、という結果をえた。つまり、日本語との接触の頻度や学習時間の総量ではなく「どのように学習したか」が日本語能力におおきく影響しているわけである。この「どのように学習したか」とは、教授法だけでなく、自国か日本か、周囲の学習者との関係、教師のビリーフ、文化的接触の頻度などの多様な要因をふくみ、これを「学習環境」とよぶ。また、基盤研究(C)「二言語話者による日本語習得の実態に関する研究」では、二言語話者の日本語キーボード誤入力率が単言語話者とかわらないにもかかわらず「自分は単言語話者よりも日本語学習において優位にたっている」という実態と合わない学習観をもっている二言語話者がおおくみられた。

このように、言語の構造、教授法、学習スタイルのような「とじられた」要因だけでなく学習環境のような「ひらかれた」要因もふくめた研究の必要性がましている。

2. 研究の目的

日本語学習者の日本語能力には、日本語との接触の頻度や学習時間の総量だけでなく、学習環境（自国か日本か、周囲の学習者との関係、教師のビリーフ、文化的接触の頻度など、どのように学習したか）がおおきく影響している。本研究は、日本語学習者の母語と学習環境が日本語能力と学習観にどう影響しているのか、特に、留学生の来日前の日本語学習環境と来日後の日本語学習環境が、日本語能力と自己評価にどう影響しているのか、つぎの三方法であきらかにすることをめざしている。

(1)日本語作文キーボード入力調査

(2)日本国内での面接調査

(3)来日前の教育機関における面接調査

3. 研究の方法

(1)日本語作文キーボード入力調査

アンケート調査票にこたえる形式で、日本語学習者に実際に日本語の自由作文をコンピュータのキーボードから入力させる。入力の過程をDVDレコーダに録画する。入力過程を記録した映像を再生チェックして、電子テキスト化し、1回の訂正を1データとしてデータベース化する。母語、学習環境のことなる者のデータと比較して、面接調査でえられたデータとあわせて分析する。

(2)日本国内での面接調査

日本語学習者に対して、学習環境に関する面接調査をおこない、音声を記録する。記録を文字化し、キーボード調査のデータとてらしあわせて分析する。

(3)来日前の教育機関における面接調査

中国吉林省長春市の赴日留学生予備学校でウイグル族の日本語学習者に対して、中国青海省西寧市の青海民族学院でチベット族の日本語学習者に対して、学習環境と学習観に関する面接調査をおこなう。

4. 研究成果

(1)マレーシア現地予備教育機関出身者

マレーシア政府派遣学部留学生は、ブミトラ政策にもとづいて、マラヤ大学内に特設された予備教育部(AAJ)で漢族やインド系の学生との接触がない状態で2年弱の日本語予備教育をうける。

2004年から帝京マレーシア日本語学院(IBT)も政府派遣学部留学生の予備教育をはじめたが、こちらは別のコースに所属する漢族の学生も一緒に学習する。

政府派遣高専留学生は、マラ工科大学に特設された予備教育部(PPKTJ)で漢族やインド系の学生と一緒に学習した後、日本の高等学校の3年次に編入する。

AAJ出身者56名、IBT出身者4名、PPKTJ出身者3名の入力調査と面接調査をおこない、このうちAAJ出身者の入力調査から以下の特徴が発見された。

- ・規範にちかづけようという意識がたよい。
 - ・自己評価がひくい。
 - ・ナマの日本語によるコミュニケーションになれていない。
 - ・日本語で表現しようという意欲がたかい。
- また、学習環境の要因としてつぎの4点が彼らの日本語学習に影響していることが推測される。

- ・現地予備教育が漢族やインド系の学生を排除した閉鎖的な学習環境であること。
- ・来日してはじめて、学習環境・学習観のことなる留学生と接触することによって自己評価が混乱すること。
- ・日本との宗教的文化的へだたりによる摩擦を回避するために、来日後も仲間同士でたすけあい、日本人とのコミュニケーションがおもったほど活性化していないこと。
- ・途中での進路変更はできず、日本語習得をさけることはできないこと。

(2) ウイグル語母語話者

ウイグル語話者 15 名の入力調査の結果から、以下の特徴が発見された。

- ・母語であるウイグル語の音韻と対応させて学習できるタ行音とダ行音の区別には問題ないが、一対一に対応させて学習できないウ段音とオ段音の区別と、母音の長短の区別はよわい。
- ・全体的に誤入力率がたかい。ウイグル語話者が、音韻の学習において、ひとつひとつの単位を正確に記憶してくみたてていくことよりも、ある程度のまとまりをざっと記憶して、コミュニケーションすることを重視しているからであると推測される。

新疆ウイグル自治区は、地理的にも文化的にも日本からへだたっており、日本語学習の環境はととのっていない。ウイグル語話者の来日前日本語学習歴のほとんどは、自治区以外の中国内でうけたものである。また、ウイグル語話者は、北京語のよみかき能力がもともとひくかったり、日本語学習に際して北京語を意識しなかったりして、北京語と日本語の漢字音の音韻対応規則を日本語学習に利用する、というような方策におもいいたらないこともある。それが日本語音韻の習得にプラスとマイナスの影響をあたえているとかんがえられる。

また、中国吉林省長春市にある赴日本国留学生予備学校で日本語教育をうけているウイグル語話者 18 名に対して面接調査をおこない、彼らが漢族の学習者の存在をつよく意識しており、日本語の「なめらかさ」において、自分たちがまさっていると自己評価していることがわかった。

(3) モンゴル語母語話者

モンゴル国出身のモンゴル語話者 34 名と中国内モンゴル自治区出身のモンゴル語話者 22 名の入力調査と面接調査の結果から、以下の特徴が発見された。

- ・母音の長短に関する誤入力は、モンゴル国出身の方が内モンゴル自治区出身者よりも誤入力率がひくい。これはモンゴル語の音韻の性質からは説明できず、漢語には母音の長短の対立がないことから、内モンゴル自治

区出身者が漢語の影響をうけていることが推測される。

- ・破裂音の有声・無声の対立に関して、モンゴル国と内モンゴル自治区の各方言におおきな差はないとおもわれるが、モンゴル国出身の方が誤入力率がひくい。日本語とはことなる、有気・無気破裂音という構造をもつ北京語の影響をうけ、内モンゴル自治区出身者の誤入力率がたかくなっていると推測される。

モンゴル国出身者は漢字の事前知識がないので、日本語語彙の音韻をひとつひとつおぼえなければならないのに対して、内モンゴル自治区出身者はすでにして漢字の知識を利用して、正確な音韻をおぼえなくても読解をすすめていくことができる。母語の音韻の直接的な影響よりも、漢語の知識の有無が、日本語の正確な音韻の習得によりおおきく影響していることがわかった。

また、内モンゴル自治区のモンゴル語話者は、中国内のウイグル語話者、チベット語話者よりも漢語話者にちかい特徴をしめすことがわかった。

(4) チベット語母語話者

中国青海省西寧市の日本語専攻のチベット語アムド方言話者 32 名に対して面接調査をおこなった（日本語キーボード入力する能力はない）。日本語専攻の学生は、入学にあたってチベット族と漢族は別枠で選抜され、入学後も日本語は別クラス編成になる。使用教材、進度、試験はおなじである。面接調査で以下の特徴がわかった。

- ・漢族の日本語の発音のわるさを指摘する者がおおい。別のクラスで日本語を学習している漢族の学生の日本語の発音をきく機会はそれほどおおくないはずであるのに、発音のちがいに関する指摘がおおいは、チベット語母語話者たちが口頭コミュニケーションにつよい関心をもっていることであらわれであるとおもわれる。

・チベット語と日本語の文法がにているという指摘がおおいにもかかわらず、「日本語の勉強が一番大変なのは何か」という質問に対する回答では「文法が一番むずかしい」という回答が圧倒的におおい。それは、彼ら自身が指摘するように、最初はよくても、学習の段階がすすんでいくと、文法の理解には媒介言語による説明が必要になるが、チベット語で説明した教科書がない、というところにいきつく。

- ・漢族とチベット族の学習スタイル、学習観、学習環境のちがいを指摘する者がおおい。チベット語話者たちは、日本語を学習することの困難よりも前に、都市の文化、学校の文化、一斉授業の文化、座学の文化が、適応のための対策が不十分なまま外来の管理者によつ

てもちこまれたことによる困難に直面している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

1 土屋順一、チベット人日本語学習者の日本語学習観、日本語教育連絡会議論文集、査読無、vol.22、2011、131-136

2 土屋順一、中国のウイグル族とモンゴル族の学習者による日本語音韻の習得の比較、世界日語教育大会論集、査読無、2010、1030-0-1030-5

3 土屋順一、藤間貴子、中国赴日留学生予備学校における初級テスト項目分析と補講実施、東京外国語大学留学生日本語教育センター論集、査読無、35号、2009、133-142

[学会発表] (計 2 件)

1 土屋順一、モンゴル国と中国内蒙古自治区のモンゴル人による日本語音韻習得の比較、日本モンゴル学会秋季大会、2010.11.20、龍谷大学大宮学舎

2 土屋順一、マレーシア政府派遣留学生の日本語作文推敲の特徴、異文化間教育学会第30回大会、2009.05.30、東京学芸大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土屋順一 (TSUCHIYA JUNICHI)

東京外国語大学・留学生日本語教育センター・准教授

研究者番号：10262213